

下肢の外傷疾患

北アルプス医療センターあづみ病院
整形外科医長

狩野 修治

第9回では骨盤部の裂離骨折を紹介させていただきます。裂離骨折とは筋収縮により筋肉の付着部が剥離して起こる骨折で、骨折とよくいわれております。上前腸骨棘・下前腸骨棘に好発し、上前腸骨棘裂離骨折・下前腸骨棘裂離骨折と診断されます。

■上前腸骨棘裂離骨折

上前腸骨棘には縫工筋という筋肉がついています。縫工筋は股関節の屈曲・外転・外旋・膝関節の屈曲・内旋を行います。縫工作業（仕立て屋さん）での作業中の胡坐をかくような姿勢に関与しているとされ、縫工筋と名づけられたとされます。歩行の際の膝を安定させるように働いています。上前腸骨棘裂離骨折はダッシュ・短距離走のスタート時やジャンプ動作でおこることが多いようです。

■下前腸骨棘裂離骨折

下前腸骨棘には大腿直筋という筋肉がついています。大腿直筋は大腿四頭筋の一つでふともも前面にある筋肉で膝を伸展させると同時に股関節を屈曲させます。歩行の際に用いられます。前腸骨棘裂離骨折はサッカーにおけるキックの動作でおこることが多いようです。

■好発年齢

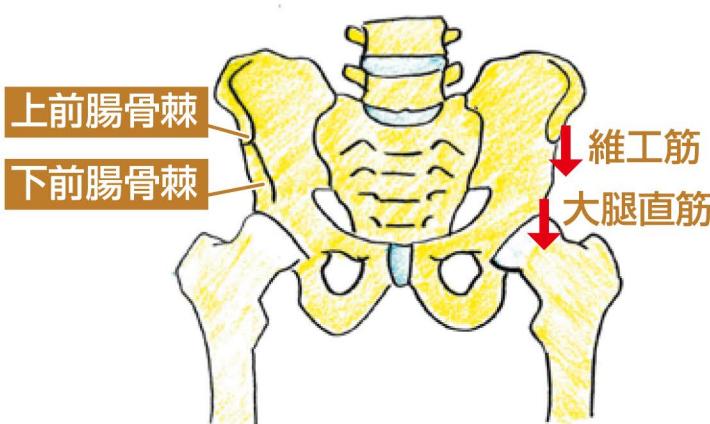
上前腸骨棘裂離骨折・下前腸骨棘裂離骨折いずれも10代におこることが多いとされますが、

上前腸骨棘裂離骨折は15歳にピークがあり、上前腸骨棘裂離骨折は13～14歳にピークがあります。

■発生原因

前述したとおりに上前腸骨棘裂離骨折はダッシュ・短距離走の走りだし、下前腸骨棘裂離骨折はボールをける動作が原因となることが多いとされますが、準備運動不足・技術の未熟さ・気温などの要因が報告されております。

癒合が得られた後となります。ほとんどの症例が運動へ復帰できますが、10代の中高生が3～4か月運動中止していられることがあります。かかるポイントとなります。



上前腸骨棘

下前腸骨棘

4～6週で疼痛はなくなることが多いですが、運動への復帰については3～4か月後の骨